

令和7年度野田市立小中学校PTA連絡協議会合同研修会

持続可能なPTA活動を目指して

野田市立山崎小学校
PTA 会長 常盤 臣

はじめに



本スライドは、11月22日に開催された
千葉県PTA研究大会匝瑳大会の発表資料を
少し手直ししたものです



令和のPTAへの変革

持続可能な組織運営を目指して

— 組織風土改革とデジタル化を両輪とした、新しい PTA モデルの構築 —

野田市立山崎小学校
PTA 会長 常盤 臣



発表者紹介

野田市立山崎小学校 PTA 会長 常盤 臣

- 3年前に野田市へ転入
- 4児の父、山崎小には小4・小1の娘が在籍
- 令和6年度に会長就任 (今年度で2年目)
- 就任時の決意: “昭和から続く前例踏襲をなくし、現代に合った持続可能な組織へ変える”



本日のアジェンダ

今日お伝えしたいこと

- 1 なぜ今、PTA 改革が必要なのか？
- 2 PTA における「持続可能性」の定義
- 3 実践①：透明化と DX 推進
- 4 実践②：任意加入と組織のスリム化
- 5 実践③：役割の再定義と外部への働きかけ
- 6 実践④：「総会」を対話の場へ
- 7 成果と今後の課題

01

1. なぜ今、PTA改革が必要なのか？



PTAを取り巻く環境の変化

「昭和」のスタンダードから「令和」のリアルへ

昭和のスタンダード

- 専業主婦世帯が多数派
- 地域のつながりが強い
- 紙と電話での連絡
- “みんなと同じ”が基本
- 全員加入が暗黙の前提

令和のリアル

- **共働き世帯が多数派** (7割以上)
- ライフスタイルの多様化
- 時間的・精神的余裕のなさ
- 個人の価値観を尊重
- デジタルツールでの常時接続



従来型PTAモデルの課題

持続可能性を阻害する「昭和の慣習」

全員加入の“常識”

任意団体であることの認識が薄く、半ば強制的な加入が前提となっている

一人一役・ポイント制

活動への参加が義務となり、**保護者の大きな負担**となっている

前例踏襲の事業運営

「去年もやったから」という理由で、形骸化した活動が温存されがち

改革への決意



“

このままではいけない
子どもたちのためにあるべき PTA が、保護者の
負担になってはいけない

2. PTAにおける「持続可能性」の定義



持続可能性 (Sustainability) とは？

一般的な定義とPTAへの応用

- 一般的な定義 (SDGsなど): 環境・社会・経済の3側面において、**将来世代のニーズを損なうことなく、現代世代のニーズを満たす**こと
- PTA における持続可能性: PTA の本来の目的 (=子どものため) を達成し続けるために、**組織運営が将来にわたって継続できる**こと
- 保護者の**過度な負担や義務感に依存しない**仕組みであること
- 「やらされるPTA」から「自ら関わるPTA」への意識変革



PTA の本来の目的と役割

私たちは、何のために集まっているのか

- PTA は、**親と教師が協力**して子どもの健全な成長や教育環境の向上を目指す団体
- 日本では戦後、GHQ の指導により設立された歴史 (1947年)
- **最も大切な目的: 「子どもの健全な成長や教育環境の向上を目指す」** こと
- しかし、その活動を担う組織自体が持続可能でなければ、この目的を達成し続けることはできない

山崎小 PTA の活動ビジョン



「子どものため」を具体化する2つの柱

ビジョン 1: 安全への寄与

何よりも**子どもの安全に寄与**できる
活動をすること
(旗振り、安全パトロール等)



ビジョン 2: 体験・体感の提供

子どもたちが「**体験**」「**体感**」できる
活動をすること
(イベント企画等)





持続可能な PTA へのスローガン

“

できる人が、できるときに、できることを。

— 山崎小 PTA 『令和の PTA』の合言葉

03

3. 実践①：透明化とDX推進



PTA ホームページの開設

開かれた PTA のための情報基盤整備

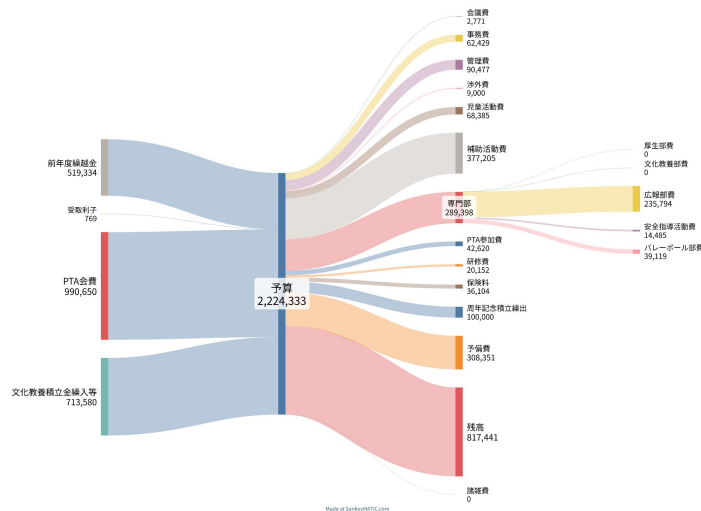
- PTAの組織や活動内容、規約、各種届出用紙などを**すべて公開**
- 誰もがいつでも情報を得られる環境を整備し、**活動の透明性**を飛躍的に高める
- 会員・非会員を問わず、PTA 活動への理解を促進
- 問い合わせフォームも設置し、意見や質問を受け付ける窓口を一本化



会計の透明化: サンキー図の活用

お金の流れを「見える化」する取り組み

- 総会資料において、**収支報告をサンキー図で可視化**
- どこから収入があり、何に支出されているかが一目瞭然
- 特に「任意加入」で財源が限られる中、事業の選択と集中を議論するうえで不可欠なプロセス
- **持続可能性 (財源) の議論**を行うための重要な透明化措置





安全指導活動の改革 (DX)

「紙と手渡し」の慣習を廃止し、負担を大幅削減

- 1 **Before:** 従来の活動 — 回覧板での情報伝達、横断旗のリレー
- 2 **DX 1:** 当番表をホームページに掲載 (パスワード付)
- 3 **DX 2:** 横断旗を全会員に配布 (手渡し廃止)
- 4 **DX 3:** 活動日誌も Google フォームへ移行
- 5 **After:** 各家庭の負担と個人情報保護のリスクを大幅に軽減



コミュニケーションツールの導入

LINE WORKS による円滑な情報共有と募集

- 会員限定の情報共有や**有志メンバーの募集**を円滑化
- PTA本部からの情報発信を、紙媒体や学校の連絡網から**PTA独自のチャネルへ移行**
- 広報誌に掲載しきれなかった写真の限定公開などにも活用
- 旗振り当番のリマインド (前日夜・当日朝・旗振り後の報告) を実現

04 4. 実践②: 任意加入と組織のスリム化



任意加入の明文化と実運用

「自動加入」から「意思確認」へ

- PTAが**任意団体であることを**規約やホームページで明確化
- 入会届・退会届を整備し、いつでも提出可能に
- 令和7年度新入生からは、**入会届の提出をもって加入**とする運用に変更
- 新入生向け説明会でも「入会は強制ではない」「入会しなくても子どもに不利益はない」と明言



結果：加入率の変化

任意加入の徹底がもたらした現実

令和6年11月時点

加入家庭数

297

未加入家庭数

1 (0.3%)

加入率

99.7%

令和7年4月時点

268 ↘

31 (10.4%) ↗

89.6% ↘



個人情報保護体制の整備

任意団体としてのコンプライアンス強化

- PTA が独自に個人情報を管理するための体制を構築
- 「個人情報取扱規則」や「プライバシーポリシー」を策定・公開
- 学校とは**業務委任契約を締結**
- これにより、学校から提供される個人情報(名簿など)を適正に管理する法的根拠を整備



組織のスリム化 (ビフォーアフター)

「一人一役」の廃止と組織の抜本的見直し

令和6年度までの組織図

- PTA本部
- 多数の専門委員会
卒業対策, 選考, バザー, 青少年補導, 給食
- 多数の専門部
厚生, 広報, 文化教養, 安全指導, バレーボール
- 各種係
家庭教育学級, イベント協力

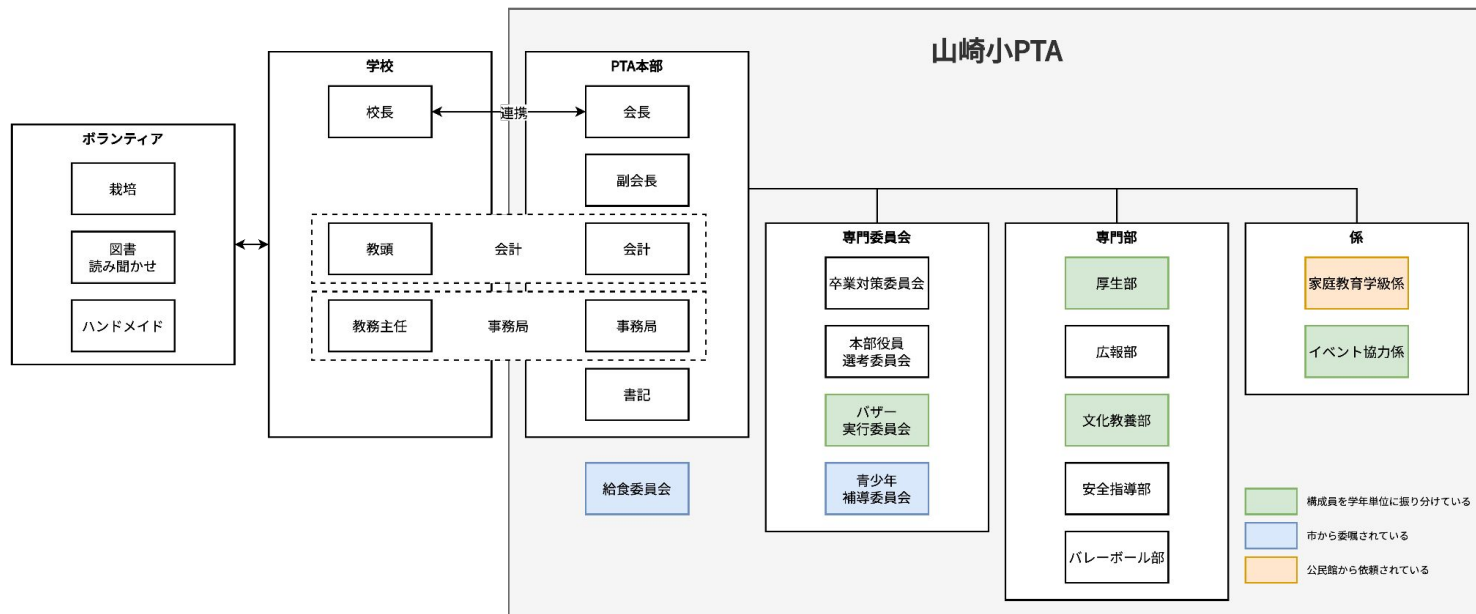
令和7年度の組織図

- PTA本部
広報・安全担当を内包
- 専門委員会
卒業対策、選考のみに縮小
- **専門部・係を大幅に廃止・統合**
- **サークル制度 (任意作成)** を新設



組織のスリム化 (ビフォー)

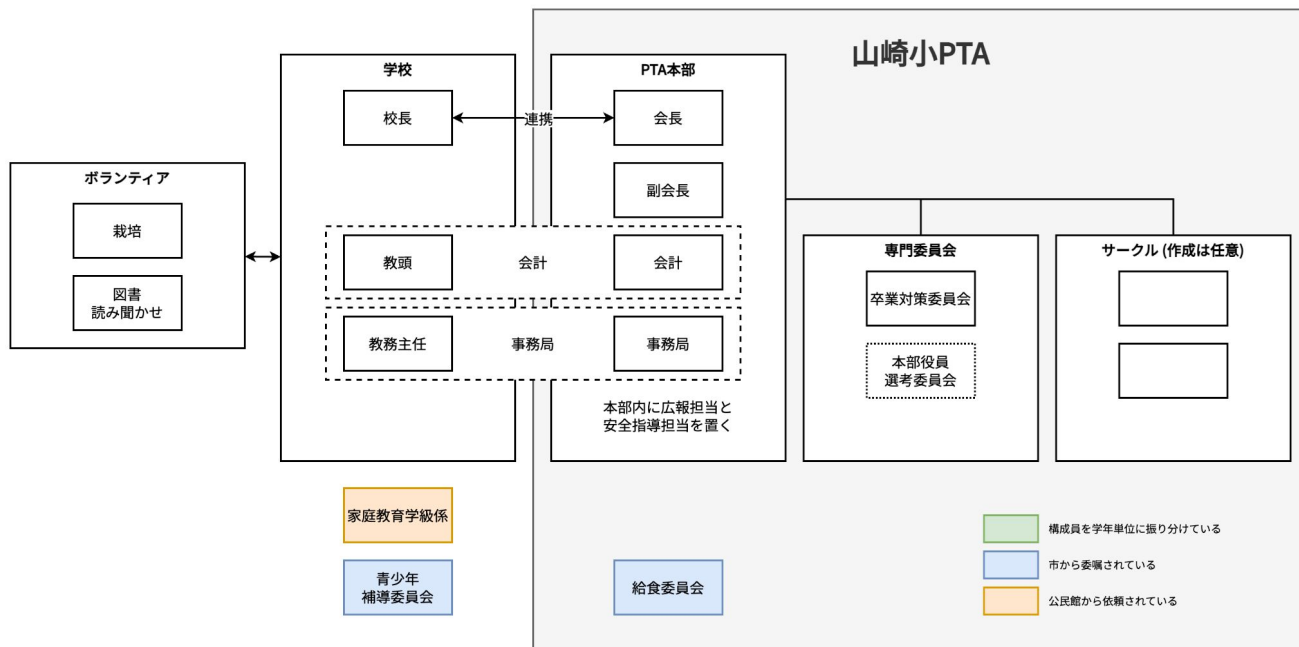
「一人一役」の廃止と組織の抜本的見直し





組織のスリム化 (アフター)

「一人一役」の廃止と組織の抜本的見直し





サークル制度の導入

「やりたい活動」を後押しする新しい枠組み

- 従来のボランティア団体が抱えていた課題 (運営の OG 化、PTA 会費からの支出) を解決
- PTA 会員が「自分たちの意思で、子どもたちのために主体的に活動できる枠組み」として新設
- 活動内容は精査・承認が必要
- 定期報告と予算使途の明確化を必須とし、継続判断を行う

5. 実践③: 役割の再定義と外部への働きかけ



問題提起：学校運営費の補填問題

PTA 会費が、学校の備品購入費等を補填している現状

- 従来、PTA が学校備品の購入や学校行事の補助など、**学校が本来負担すべき費用の一部を賄う**ケースが散見された
- **問題点①**: PTA が補填を続けると、**自治体の予算配分が十分に行われない**懸念 (悪循環)
- **問題点②**: 任意加入で会費収入が減少すれば、**もはや補填し続けることが困難**になる
- このままでは教育環境の充実が阻まれる可能性



外部への提言：市P連への要望書

持続可能な学校運営と PTA 活動の在り方を問う (令和7年3月)

1. 学校運営費の適正な予算確保

PTA が補填する必要がないよう、野田市へ十分な予算配分を働きかけてほしい

2. 役割分担のガイドライン明確化

市の教育行政と PTA の役割の線引きを明確にしてほしい

3. 任意加入後の活動維持への支援

財源減少後も活動が継続できるよう、自治体予算等でカバーする仕組みを検討してほしい



市P連主催事業の見直し

「前例踏襲」事業の打ち切り

- **対象事業:** 市P連主催のバレーボール大会 (昨年度で第49回)
- **課題:** 参加校の減少 (合同チームや OG 参加で維持)
- 近い将来、大会開催そのものが危うい状況
- **自校は不参加なのに大会運営は必須**、という矛盾も発生しうる
- **結果:** 私が市P連副会長の任にあった年度に**主催打ち切りの方針を主導**

06 6. 実践④：「総会」を対話の場へ



総会の位置づけの変更

「決議の場」から「対話とビジョン共有の場」へ

- **従来:** 議案を一方向的に報告し、拍手で承認する「儀式」になりがち
- **改革後:** PTA の理念やビジョンを会長自身の言葉で語る場とする
- 会計報告の透明化 (サンキー図) など、**情報開示を徹底**
- 会員から寄せられた**意見・質問に誠実に回答**し、その内容を全会員に公開
- 反対意見 (議案への反対票) も隠さず公開



総会での主な質疑応答 (抜粋)

Q. 事務費のTシャツは何のため？まさか本部だけが着てる？

A. 本部およびイベント関係者の識別用でバレー応援、山小フェス等で使用。一部メンバーは実費購入 (PTA 予算不使用)。

Q. なぜPTAが自主学習ノートを購入したのか？

A. 前校長の「自ら学ぶ姿勢」を育む取り組み。学力向上に結果も出ている。一方で、PTA 会費を使う是非の意見あり。

Q. 広報部の印刷代はムダ。時代錯誤だ。

A. 改善未着手だった点は認める。今後は業者見直しで費用削減し、ネット活用に切り替えていく。

Q. サークル活動は報告だけ？精査しないのか？

A. 精査する。申請段階で趣旨に沿うか判断し、活動報告と予算使途に基づき継続判断を行う。

07

7. 成果と今後の課題



改革によって得られた成果

変わり始めた「意識」と「仕組み」

- 保護者からの共感の声「時代に合った活動をしてほしい」「できる人がやればいい」
- 活動のデジタル化による**本部役員の負担軽減**
- ホームページによる情報公開で、**PTA 活動への理解が促進**
- **最大の成果:**「やらされるPTA」から「**自ら関わるPTA**」へと、意識が変わり始めたこと



直面している2つの大きな課題

持続可能性に向けた次のハードル

課題 1: 財源の減少

任意加入の徹底による**加入率の低下 (約10%減)** と、それに伴う会費収入の減少。限られた財源でいかにビジョン（子どもの安全・体験）を実現するか。

課題 2: 属人化の防止

改革が**特定の個人のリーダーシップに依存**しないよう、誰が役員になっても理念が引き継がれ、運営が継続していく仕組みづくりが急務。



私たちが目指すPTAの姿

『令和のPTA』が目指す4つの姿

1. 強制ではなく、自発的に

「関わりたい」と思える空気づくりを大切にする

2. 任意加入でも活発に

「関わりやすさ」を徹底し、参加してよかったと思える価値を提供する

3. 持続可能な運営体制

属人化を防ぎ、過去の慣習にとらわれず柔軟に見直しを続ける

4. 子どもたちの未来のために

大人が楽しそうに関わる姿を見せる、その背中を子どもたちは見ている

おわりに



PTA は、子どもたちにとって**最も身近な応援団**です

“

その応援団である私たち大人が、義務感に縛られるのではなく、楽しみながら活動する姿を見せることこそが、持続可能性を高め、子どもたちの未来への最高の贈り物になるのではないのでしょうか

ご清聴ありがとうございました

キャラクター: 山りん

令和6年度、校内でキャラクターを
募集して決定しました



野田市立山崎小学校PTA